

令和8年度第2回高齢者福祉専門分科会後に各委員より寄せられた意見書の内容

	分類	ご意見(要約)
1	施策目標・重点テーマ	今、社会福祉の基本コンセプトである「地域共生社会の実現」には、 市民の相互理解・共生の意識醸成 が不可欠である。計画上に 市民同士の対話や交流の機会創出 や促進の視点が少なく残念に感じた。特に、 若い世代 が多世代、さまざまな特性を持つ人たちとの 交流をする体験 は時代とともにますます大事になっている。こうした直ぐに成果につながらないが地域づくりの基礎となる部分にもしっかり目を向けてほしい。
2	施策目標・重点テーマ	計画の基本的な部分において、 ACP をはじめとする 人生の最後 について市民が考え、その備えをすることを盛り込むべき時期に来ていると思った。
3	施策目標・重点テーマ	高齢者や福祉・介護に関して 多世代に伝える機会 を作ること、高齢者が住み慣れた地域で仲間等と繋がり希望をもって暮らせると考える。
4	計画策定・事業展開の視点	八王子の地域特性に応じた八王子らしい将来像を委員や現場の皆さんの声を活かし描く視点を前面に示してほしい。
5	計画策定・事業展開の視点	エビデンスに基づく政策立案は時代の流れであるが、幸福度や生活満足度といった市民の主観をより重視した計画策定や事業展開を図るべきだと思う。
6	個別事業【認知症施策】	市として『新しい認知症観』を目指すにあたり、認知症サポーターや、各包括に配置している認知症地域支援推進員などの在り方について今一度見直してみる必要がある。
7	個別事業【高齢者あんしん相談センター】	現状、高齢者あんしん相談センターの業務の評価の仕方は量的評価が多くみられる。相談件数、虐待件数、地域ケア会議等実施件数、地域リハビリテーション活動支援事業利用率等における量的評価など。これらが現場の焦燥感を生んでいる側面がある。「何件やったか」ではなく、本人の望みを叶えるための「プロセス（過程）」や、支援の結果得られた「安心感」といった、質的な側面による評価軸を検討して欲しい。
8	個別事業【高齢者あんしん相談センター】	高齢者あんしん相談センターにおいては、複雑困難ケース、多重課題が増加している。また、支援の中で職員の身に危険が及ぶ可能性の高い場面もある状況である。組織的に支える仕組み（基幹型地域包括支援センターによる強力なバックアップ）を検討いただきたい。

令和8年度第2回高齢者福祉専門分科会後に各委員より寄せられた意見書の内容

	分類	ご意見(要約)
9	個別事業【介護予防（てくぽ）】	令和7年度の「てくぽ」の事業評価について、目標20,000人に対して実績20,058人で◎との自己評価がされている。しかし、八王子市の60歳以上人口は約190,000人であることから、約10.5%程度の普及率に過ぎず高い数字ではない。15～20%の普及率を目標にすべきであった。
10	個別事業【介護予防（てくぽ）】	「誰でも参加できるてくぽ」を掲げるのであれば、登録支援・操作支援（大学生等の伴走支援者の活用）・継続支援が不可欠と考える。
11	個別事業【介護予防（てくぽ）】	令和7年度の「てくぽ」の事業評価について、「目標歩数を10日以上達成した割合」「食食品目数の目標を10日以上達成した割合」が低下している。登録・操作・継続支援が不足していることが要因ではないか。「誰でも参加できるてくぽ」の実現が重要であると考え。
12	個別事業【介護予防（短期集中予防サービス）】	令和7年度の「短期集中予防サービス」（ハチプロ・食楽訪問）の事業評価について、利用件数や実態の報告がない。事業を推進するだけでは不十分であり、実際の利用者の意見などを踏まえて、事業評価を行わなければ新たな施策の推進につながらないと考え。
13	個別事業【介護予防（わくわく）】	「わくわく」（住民主体による通所型サービス）について、実施箇所を増やす必要がある。遠方で参加できない市民が多い。限られた地域のみでの実施では事業による十分な効果が得られないと考える。
14	個別事業【介護予防（八王子健康アンケート）】	八王子健康アンケートについて、大変な作業であることを理解しており、素晴らしい取り組みであると思う。
15	個別事業【介護予防（口腔）】	八王子市と歯科医師会で実施している「歯と口腔・歯周病検診」「後期高齢者歯科健診」について、受診率が低い。健診・検診を実行することが目標でなく、受診率を上げ、必要に応じてしっかりと治療につなげることが大事と考える。
16	個別事業【介護予防（口腔）】	後期高齢者歯科健診においては対象年齢の拡大が必要と考える。
17	個別事業【介護予防（口腔）】	口腔機能の低下は、低栄養、フレイル、誤嚥性肺炎、要介護状態の進行などと深く関連しており、認知症の方においても生活の質（QOL）の維持に大きく影響する。口腔機能の維持が健康寿命の延伸や認知症・フレイル予防につながることを広く周知する必要がある。
18	個別事業【介護予防（SOF T）】	S O F Tに関する取り組みの内容について公表してほしい。

令和8年度第2回高齢者福祉専門分科会後に各委員より寄せられた意見書の内容

	分類	ご意見(要約)
19	個別事業【介護予防 (データ連携・EBPM)】	八王子市の高齢者福祉は地域差、移動制約、独居高齢者の増加など複合課題が進行している。介護保険データ、地域包括支援センターの相談記録、フレイル健診等を統合し、施策の効果を検証し改善するEBPMの導入は不可欠である。限られた資源を効果の高い予防施策に重点配分するためにもデータ統合の仕組みが必要である。
20	個別事業【介護予防 (データ連携)】	保健福祉センター・高齢者あんしん相談センター・SOFT・わくわく等で測定会が実施されているが、目的が異なるため統合が難しい面がある。しかし、現状ではデータの集約・分析・活用方法が明確でない。紙や手作業を脱し。入力・集計・分析・フィードバックまでを一元化にデジタルで統合する仕組みの構築をお願いしたい。
21	個別事業【介護予防（測定会）】	市民には測定会の開催情報が十分に届いておらず、どこで・誰が・どのような測定会を行っているのか把握しづらい状況である。市全域に情報が行き渡り、参加しやすい環境整備のため、行政による情報の一元化が必要と考える。
22	個別事業【介護予防（フレイル予防測定会）】	個別事業として「フレイル予防測定会」の実施を提案する。次回分科会での協議をお願いする。

【参考】令和8年度第2回高齢者福祉専門分科会における各委員のご意見（質問は除く）

	氏名 (敬称略)	分類	ご意見（要約）
1	千種康民	施策目標・重点 テーマ	早期に実施することで計画の施策全体への波及効果が高まるような取組を見極め、 最優先 で実施するようにすべきである。 例えば「時短」に関する取り組み。文書作成業務の効率化などの時短施策を早期に実施することで、その後の事業全体を円滑に進めることができる。
2	杉原陽子	施策目標・重点 テーマ	特にここの根詰まりを直すと後がスムーズになるというようなものがあれば、それは重点課題として取り扱うべきである。
3	塚本恵里香	施策目標・重点 テーマ	施策目標には、外国人高齢者など、 多様な高齢者への対応 に市が向き合っていく、ということがわかるような 表現を入れて欲しい 。 多様な高齢者への対応は第9期計画の考えにも含まれているという説明があったが、第9期計画の施策目標の表現では多様な高齢者に向き合っていくという市の姿勢が言葉からは見えづらく、第10期計画において市が一步踏み込んだ対応をとるとということがわからない。
4	尾寄敏夫	施策目標・重点 テーマ	この計画は、広く「高齢者」がより安心して暮らせるようにするための計画であって、この「高齢者」には外国人や障害者など様々な高齢者を含んでいる。 個別の多様な高齢者に関することを詳細に計画で盛り込む必要はない のではないかな。
5	塚本恵里香	施策目標・重点 テーマ	八王子市には 多様な資源や取組 が存在する一方で、それぞれの主体が独自に運用しており、全体像が十分に整理されていない現状がある。 第10期計画では、これらの資源・取組を、 地域単位や市全体の単位で整理する機会 を設けて、今後の施策展開に活用していくべきである。 資源や取組が整理されれば、事業者や市民の方々も自分たちの資源をしっかりと認識できるようになる。
6	田中裕之	施策目標・重点 テーマ	施策目標には、 人生の最終段階における生活 に関する要素をどこかに入れると良い。現在の施策目標2では、「在宅」という言葉で強調されているが、終末期には病院や介護施設に居たいということを希望される方も多く、 在宅に限らない 。人生の最終段階で、本人の望む環境で最期を踏まえられということが目標に入ると良い。
7	杉原陽子	施策目標・重点 テーマ	今後 身寄りのない高齢者 もどんどん増える。そういう方々のエンディングの場は、家ではない可能性が高いだろう。そうなると、施策目標の文言も変わってくるのではないかな。
8	佐藤一広	施策目標・重点 テーマ	施策目標には、 身寄りのない高齢者への課題を整理 し、そこに対する 具体的な資源開発 を行う、という形の目標があるとよい。ショートステイ中の発熱時の通院対応など、身寄りがいないことで誰が対応するのか困る事例があり、現場では包括や市が人力で対応している状況がある。緊急時の対応、入院時の手続き、終活、死後事務など、場面ごとの課題を整理し、身寄りのない高齢者への具体的な資源開発を行うという形を目標として位置付けてほしい。

【参考】令和8年度第2回高齢者福祉専門分科会における各委員のご意見（質問は除く）

	氏名 (敬称略)	分類	ご意見（要約）
9	千種康民	施策目標・重点 テーマ その他	ポイントをまとめるにあたっても、人間の恣意的さが入る。AIを使えば、AIが網羅的に拾ってくれる。 業務の効率と実効性が非常に上がる 。 第10期計画の重点課題をAIで検討したところ、「相談支援体制の抜本的再編と拠点化によるチーム対応」「AI・ICTによる事務相談業務の省力化」「介護DXを縦串とした生産性向上とサービス提供体制の維持」「EBPMに基づいた予防型福祉への転換による需要抑制」の4項目が抽出された。
10	佐藤一広	評価方法について	評価の軸について。量や件数による評価だけでなく、 質による評価 も非常に重要。ウェルビーイングやフレイルも含め、主観的な要素が大きい。一人一人の価値観や「こうありたい」という思いに資するため、本人らしく望むことを叶えるための プロセスの評価 や、最終的な主観の評価という軸を増やしていく手立てがあるとよい。
11	尾寄敏夫	令和7年度事業評価について	個別項目では◎や○が多く、数値も改善しているにもかかわらず、全体評価が「×」となっている点がわかりにくい。
12	礒部剛久	個別事業【介護予防（てくぽ）】	令和7年度のてくぽの事業評価について、活動目標が2万人とあるが、市の60歳以上の人口は約19万人であり、目標値が低いと考える。
13	礒部剛久	個別事業【介護予防（わくわく）】	「わくわく」（住民主体による通所型サービス）について、実施場所が市内3か所に限られており、遠方に住む高齢者にとって参加しにくい状況がある。二重丸の評価は疑問である。
14	礒部剛久	個別事業【介護予防（短期集中予防サービス）】	「ハチプロ」（通所型短期集中予防サービス）や「食楽訪問」（訪問型短期集中予防サービス）について、どのように実施され、どのような課題があり、現在どのような状況にあるのかが、市以外には分かりにくい。取組内容や成果を市民に分かりやすく発信し、実態が見える形にしてほしい。
15	塚本恵里香	個別事業【高齢者あんしん相談センター・はちまるサポート】	はちまるサポートが拠点化することで数が減るとなると、その業務負担が高齢者あんしん相談センターに及んでいく可能性がある。
16	礒部剛久	個別事業【高齢者あんしん相談センター・はちまるサポート】	市民目線でみると、はちまるサポートがあつて、高齢者あんしん相談センターがあつて、保健福祉センターとなるとどこに相談すればいいのかわかりにくいので、統合するとよい。

【参考】令和8年度第2回高齢者福祉専門分科会における各委員のご意見(質問は除く)

	氏名 (敬称略)	分類	ご意見(要約)
17	川津明弘	個別事業【認知症施策】	認知症サポーター養成講座や認知症月間の取組について、地域の高齢者に十分認知されておらず、認知症理解の浸透につながっているのか疑問である。 認知症サポーター養成講座で認知症だけを学ぶのではなく、子どもの頃から高齢者や福祉全般について学ぶ機会を充実させることが重要である。 学校教育とも連携し、八王子ならではの福祉教育や地域での学びの仕組みを進めてほしい。
18	千種康民	個別事業【認知症施策】	認知症サポーター養成講座が不要ということではなく、講座の効果を高めるためのPDCAが十分に機能していないことが問題である。地域で成果を上げている団体等と協働し、その実践的な手法を取り入れながら、講座内容や実施方法を改善し、より実効性の高い取組としていくべきである。